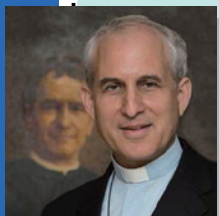


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.95 - 2016年11月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



2016年11月11日 ローマ

年配の、また病をわずらう会員の皆様
そしてさまざまな理由から、教育、司牧の活動に直接たずさわることのできない
会員の皆様

親

愛なる兄弟会員へ

総本部、ドン・ボスコの後継者の家から、心よりのあいさつをおくります。

あなたの寄り添う気持ち、愛情、そして何よりも、アンヘル・フェルナンデス神父のため、会全体のため、また特に全世界の宣教地とすべての宣教師たちのための兄弟的な祈りへの心からの感謝を、私から、また総長に代わり、申し上げたいと思います。

第27回総会により宣教顧問に選ばれて以来、私はしばしば、年配の、病をわずらう、あるいは、教育の宣教の仕事に直接たずさわることのできない、実に多くの会員の祈りを頼りにしてきました。ご存知のように私たちの会憲は、宣教顧問に次のように求めています。「宣教の精神と活動を会の中で促進する。」(会憲第138条)このことは、たくさんの祈りをも必要とします! [...]

ドン・ボスコの第7代後継者は、その美しい書簡「殉教と受難」(エジディオ・ヴィガン神父, Atti 308)の中で私たちに教えています:

「病気の会員は、ドン・ボスコにとり、共同体の使徒的活動に主の祝福を得るための、ある種の『過越しの黙想』でした。'Da mihi animas'の精神のうちに受け入れる苦しみは、その会員を司牧運動から除外することはありません。実際、その苦しみは、会員を前線の塹壕に位置づけ、明確な役割を授けます。[...]」

親愛なる兄弟、この短い言葉と力強い思いをもって、最後に、二つのことを心の底から申し上げたいと思います: 大きな感謝、そして、私たちはあなたを頼りにしています!

あなたの忠実さ、あかし、忍耐、日々、惜しみなくささげておられる会と会の使命への貢献、これまで、そしてこれからも救うのを助けてくださるすべての靈魂のために、大きな感謝をおくります。

同時に、あなたに、あなたの祈りに、忍耐強い日々のささげもの、特に聖体のイエスと共にささげられる犠牲に、私たちは大きく寄り頼んでいることをお伝えします。あなたの祈りとささげものを通して、今年、特別に二つの意向をあなたにゆだねます:

-まず、会の[...]すべての修練生のために。彼らが、自らを決定的に主にささげることを恐れず、宣教師として出かけて行くために、総長の意向に従うため、自らを差し出すことができますように。

-そして、アメリカ大陸の宣教地のために。特に、最も貧しく、最も見捨てられた先住民族の人々と共にある宣教地のために。 [...]

母なるマリアのなぐさめが、サレジオ会員としての生活の中で、日々、あなたのインスピレーション、支えでありますように。ありがとうございます!



この手紙の全文は別添付の「病気の会員への手紙」に記載してあります。

J. Basanes

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父

イエスを告げ知らせるために宣教師になるのは素晴らしいこと

祈りと苦しみを通して、宣教師でありつづける

イタリア（イタリア）での修練期を終えてすぐ、1962年に、私ともう一人の仲間は当時、設立されたばかりのフィリピン管区に派遣されました。まず私たちは、ポストノビスを香港で、当時の東アジアの国際哲学院で過ごしました。私がフィリピンに到着したのはあらゆることが始まりました。今日、フィリピンは二つの活力あふれる管区があります！ パプアニューギニアの新たな宣教地が生まれました。フィリピンに呼び戻されるまで、パプア



ついで4年前、パーキンソン病が、ほとんど前触れなく、私の人生を訪れました。フィリピンとパプアニューギニアで16年間働きました。

なく、私の人生を訪れました。フィリピンとパプアニューギニアで16年間働きました。

た。いつも何かの司牧活動を発展させようとして全面的に若者のために費やしました。今日、私は、私の車椅子は、無活動の象徴です。この状況たちの助けになれるよう、告解を聞いたり、共同体かぎりのことをするように努めています。習慣的に、

私はいつも急いでいて、休む間もありませんでした。自分の時間はありませんでした：私は人生を、日常生活のごくふつうのことでさえ、人に頼って受け入れるのは難しいことですが、共同体や若者のいろいろな活動に寄り添うことで、自分にできる私は自分の人生を神様の目を通して見ます。そうすることで、私の日々は神様のほほえみに満たされるのです。イタリア語で、私の名前は「フェリーチェ」です（「幸せ」という意味）。本当に、私は主に仕えることができ幸せです。特に、人生の最終段階に近づく、この時に。

私の状況は、実際に、救いの手段、自分の罪からの清めとしての祈りと苦しみを通して、主に仕えるように、主の教会、私たちの会、そして若者に仕えるようにとの、主の特別な招きであると思います。良き主は、私の年齢と状況に合ったこの特別な使命を私にゆだねたいと望んでおられるようです！

私が主の教会のため、会のため、若者のために苦しみをささげることによって、自分のいのちを主へのフェリーチェ（幸せ）な贈りものとしてすることができるよう、皆さんの祈りをもって助けてください！

イタリア出身 フィリピンの宣教師 フェリックス・フルラン神父

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエル・ルイジ・カメローニ神父



ハンセン病者の使徒、イエス・マリアのみ心修道女会創立者、福者ルイジ・ヴァリアラ（1875-1923）は、亡くなる少し前に霊的娘たちに書き送っています：「今、私たちに与えられている人生の時間を聖化しましょう、なぜなら、収穫はいつまでも残るものだからです。ああ、天国のことを考えるのは何と素晴らしいことか！

私たちはそこで、いつまでも共にあって、いつまでも幸せです。今は、私たちは霊において共に生きています：従順、謙遜に、清く、自分を無にして、しかしただ愛のために……私はあなたがたをみなしごにしません、なぜなら、私のあなたがたのための祈りは、皆が聖なる者であるのを見たいという望みをもって、絶え間なくささげられるからです。」



サレジオ会の宣教の意向

南米サウスコーン地域が、私たちの働く小教区で、素朴な貧しい人々に近づくため、民衆信心のうちに聖霊から来る福音宣教の力を認めますように。

教皇フランシスコは『福音の喜び』（122-129）の中で、民衆信心に福音宣教の力があることを認めています。そこでは聖霊が主役です。民衆信心は、信仰を生きる正当な方法、教会の一員と感じ、宣教者となる一つの方法です。



そしてこれからも救うのを
助けてくださるすべての靈魂のため
に、大きな感謝をおくります。

同時に、あなたに、あなたの祈りに、忍耐強い日々のさ
さげもの、特に聖体のイエスと共にささげられる犠牲に、私たちは
大きく寄り頼んでいることをお伝えします。あなたの祈りとさ
さげものを通して、今年、特別に二つの意向をあなたにゆだねます：

-まず、会の7つの各地域で、海外宣教の召命を識別しているすべての修
練生のために。彼らが、自らを決定的に主にささげること恐れず、宣
教師として出かけて行くために、総長の意向に従うため、自らを差し出す
ことができますように。

-そして、アメリカ大陸の宣教地のために。特に、最も貧しく、最も見捨
てられた先住民族の人々と共にある宣教地のために。実は、これは
2017年のサレジオ宣教の日のテーマになります。そのために、特別な祈
りも作られており、それを、ドン・ボスコの名によって、あなたにゆだね
たいと思います。

母なるマリアのなぐさめが、サレジオ会員としての生活の中で、日々、
あなたのインスピレーション、支えでありますように。

ありがとうございます！

年配の、また病をわずらう
会員の皆様

そして
さまざまな理由から
教育、
司牧の活動に
直接たずさわることの
できない会員の皆様

J. Basanés

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

2016年11月11日 ローマ

親愛なる兄弟会員へ

総本部、ドン・ボスコの後継者の家から、心よりのあいさつをおくります。

あなたの寄り添う気持ち、愛情、そして何よりも、アンヘル・フェルナンデス神父のため、会全体のため、また特に全世界の宣教地とすべての宣教師たちのための兄弟的な祈りへの心からの感謝を、私から、また総長に代わり、申し上げたいと思います。

第27回総会により宣教顧問に選ばれて以来、私はしばしば、年配の、病をわずらう、あるいは、教育の宣教の仕事に直接たずさわることのできない、実に多くの会員の祈りを頼りにしてきました。ご存知のように私たちの会憲は、宣教顧問に次のように求めています。「宣教の精神と活動を会の中で促進する。」(会憲第138条)このことは、たくさんの祈りをも必要とします! そのため、宣教部門は会全体にわたって、毎月の教皇様の宣教の意向とサレジオ会の祈りの意向に照らし、祈りを呼びかけてきました。

特に最近、宣教地と宣教師を、会の医療施設に入っている会員たちの祈りにゆだねてきました。実際、私たち宣教部門のメンバーは、2014年以来、毎月11日にここローマにある教皇庁立サレジオ大学の医療施設へ行き、入所している会員と共にミサをささげています。愛する年配の、また病をわずらう兄弟会員の皆さん、今、私たちは、皆さん全員と深い一致の交わりのうちにあるのを感じます。

なぜ毎月11日なのでしょう? すでにご存じでしょう。11日は、会の最初の宣教派遣の月の記念日、今日と同じ日、1875年の11月11日に、ドン・ボスコ自身が送り出した派遣の記念日なのです。

ドン・ボスコの第7代後継者は、その美しい書簡「殉教と受難」(エジディオ・ヴィ

ガノ神父, Atti 308) の中で私たちに教えています:

「病気の会員は、ドン・ボスコにとり、共同体の使徒的活動に主の祝福を得るための、ある種の『過越しの黙想』でした。

‘Da mihi animas’ の精神のうちに受け入れられる苦しみは、その会員を司牧運動から除外することはありません。実際、その苦しみは、会員を前線の塹壕に位置づけ、明確な役割を授けます。私たちの活動的な修徳は、病の苦しみを避けたり除外したりしません。それを受け入れ、救いの手段へと変えることによって、活用するのです。

さらに、キリストの神秘にあずかることとして受け入れられる苦しみは、重要な使徒的価値を持ちます。当然、理解できることとして、苦しみはある程度、苦悩を伴います(何と言っても、キリストご自身、「死ぬばかりに悲しい」思いをされました)。しかし、救い主のあがないの使命にあずかっているという、深く、生き生きとした喜びもあるのです。」

親愛なる兄弟、この短い言葉と力強い思いをもって、最後に、二つのことを心の底から申し上げたいと思います: 大きな感謝、そして、私たちはあなたを頼りにしています! あなたの忠実さ、あかし、忍耐、日々、惜しみなくささげておられる会と会の使命への貢献、これまで、

